

アルコール関連問題に関する調査・研究を
推進するための必要なメカニズム：
アルコール生命医科学推進のための提言

三重大学消化器内科 竹井謙之

2015年8月28日

第7回アルコール健康障害対策関係者会議

アルコールによる身体障害

I) 急性アルコール性障害

II) 慢性アルコール性障害

(1) 肝障害

(2) 急性・慢性膵炎

(3) 消化管障害

(4) 癌

(5) 中枢・末梢神経障害

(6) 循環器疾患(高血圧症、心筋症、不整脈、脳出血)

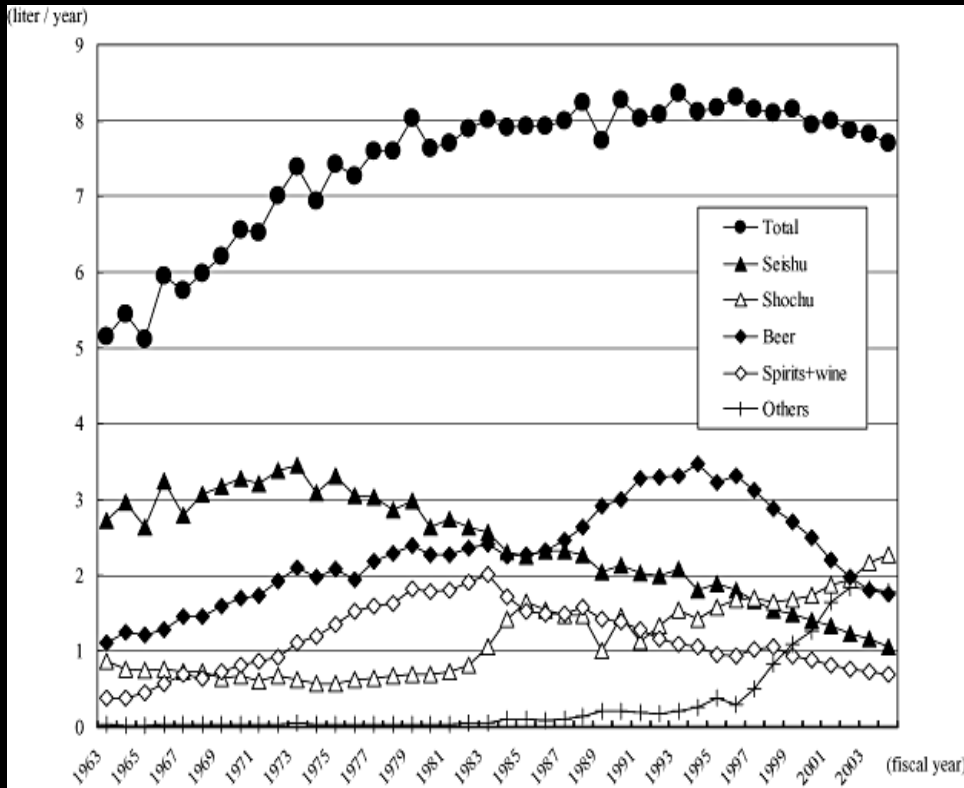
(7) 耐糖能異常

(8) 脂質代謝異常症

(9) 造血障害

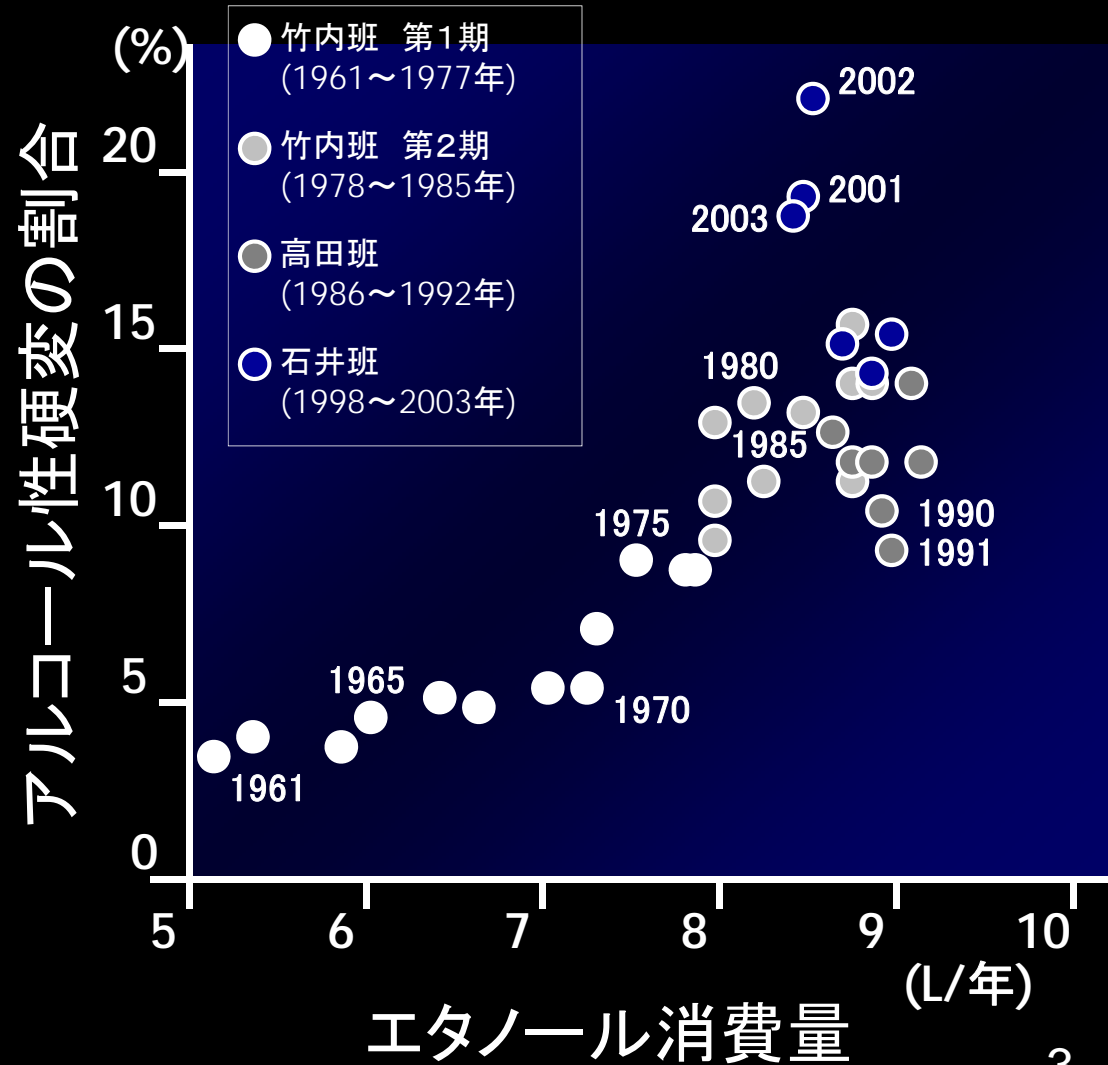
(10) 精神神経疾患

アルコール消費量と肝疾患の関係



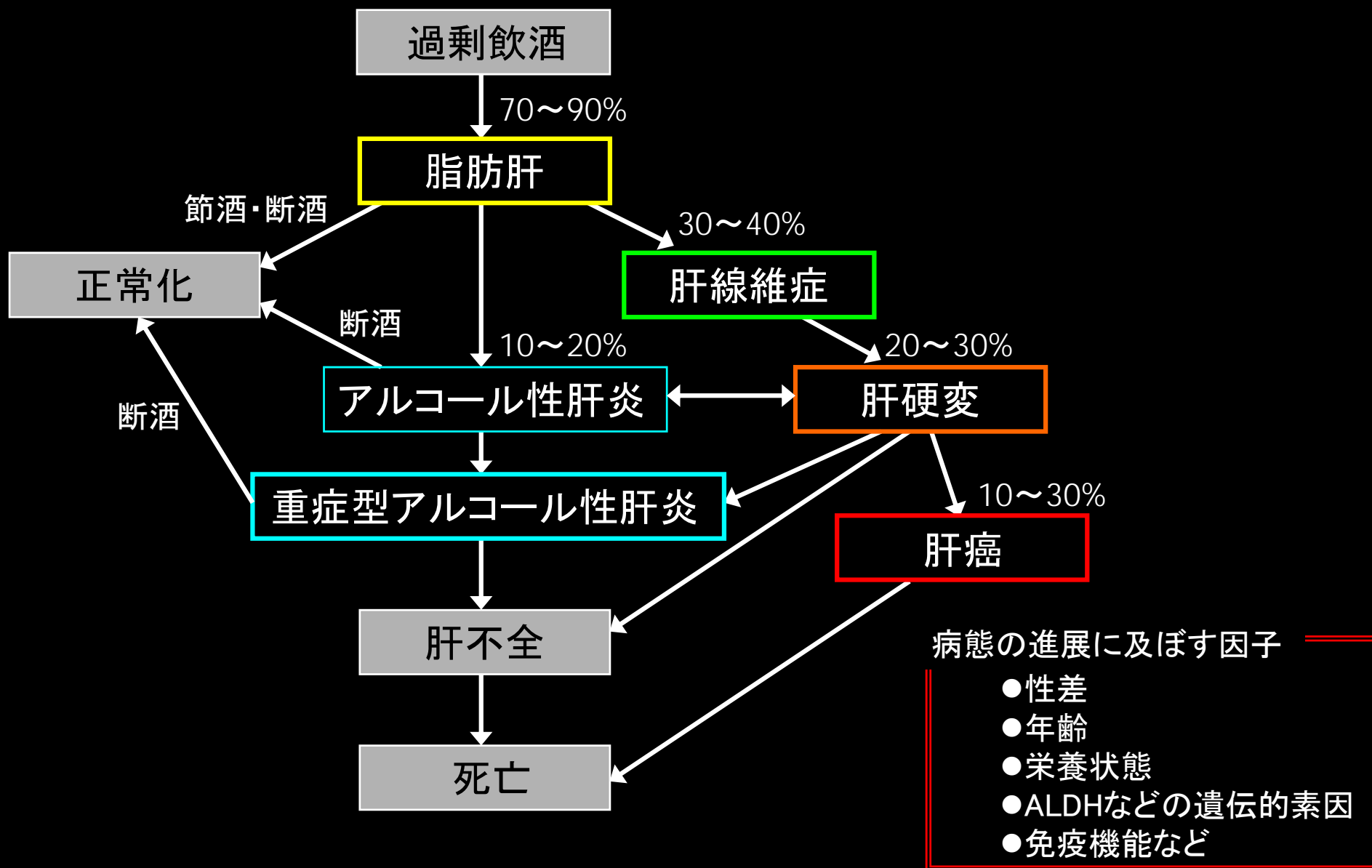
我が国のアルコール消費量

樋口 進, Addiction 2008

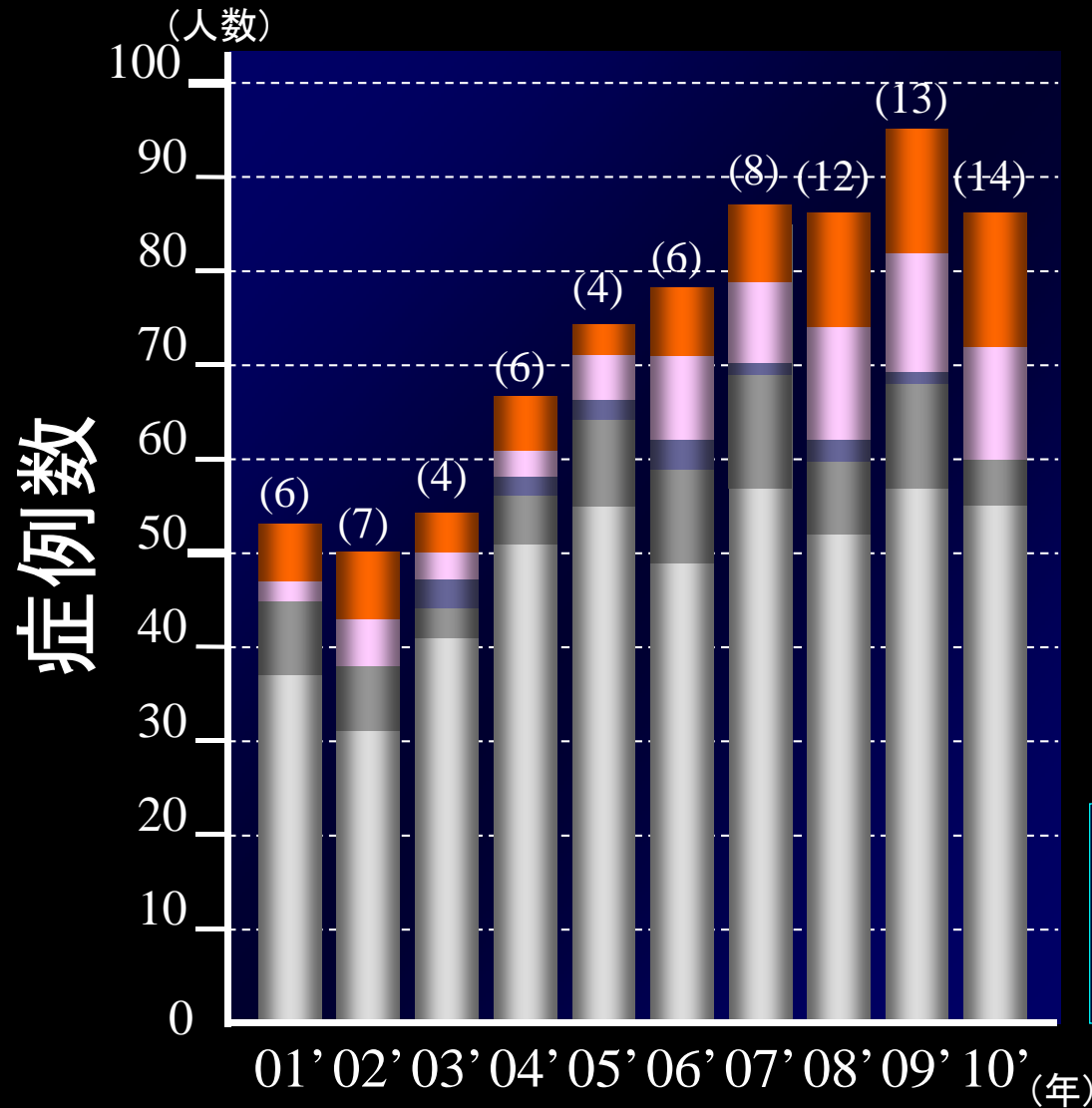


エタノール消費量

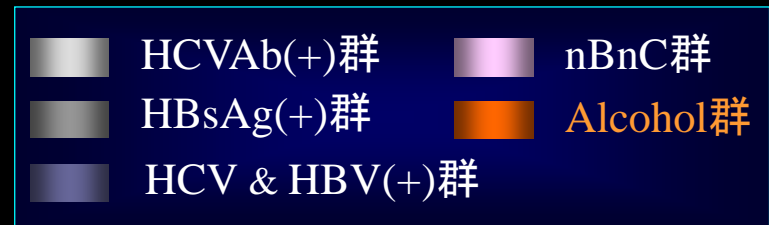
アルコール性肝障害の進展様式



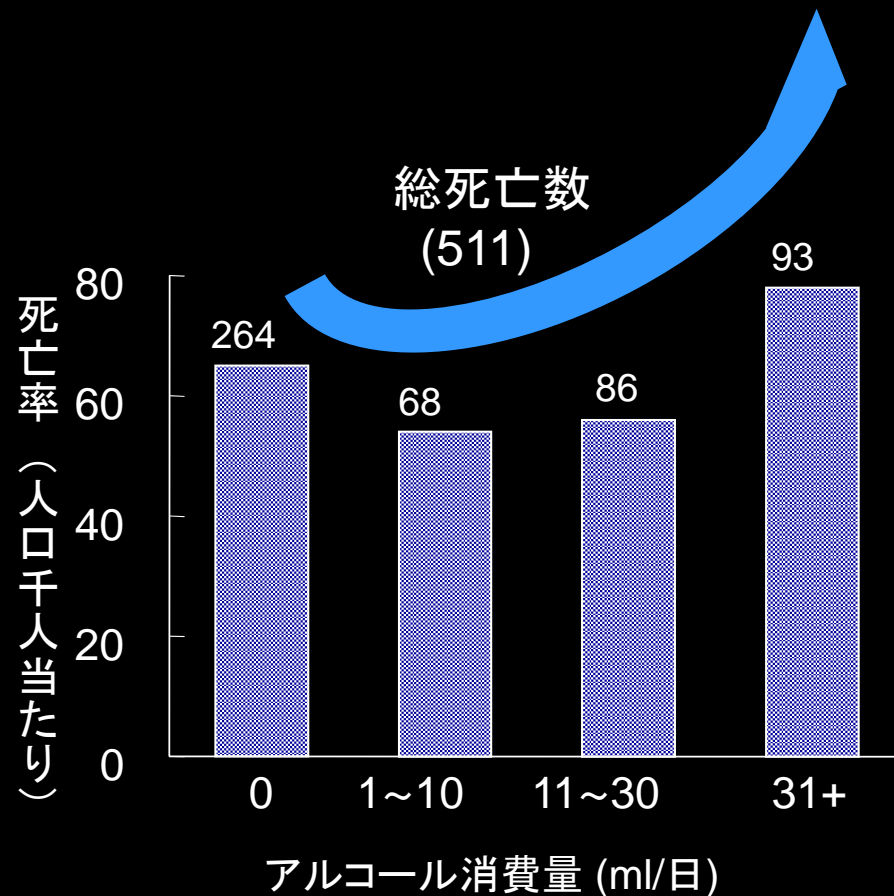
当科における年別新規肝硬変患者数の推移



アルコールによる肝硬変患者は依然として増加傾向にある



飲酒習慣の生活習慣病に与える影響

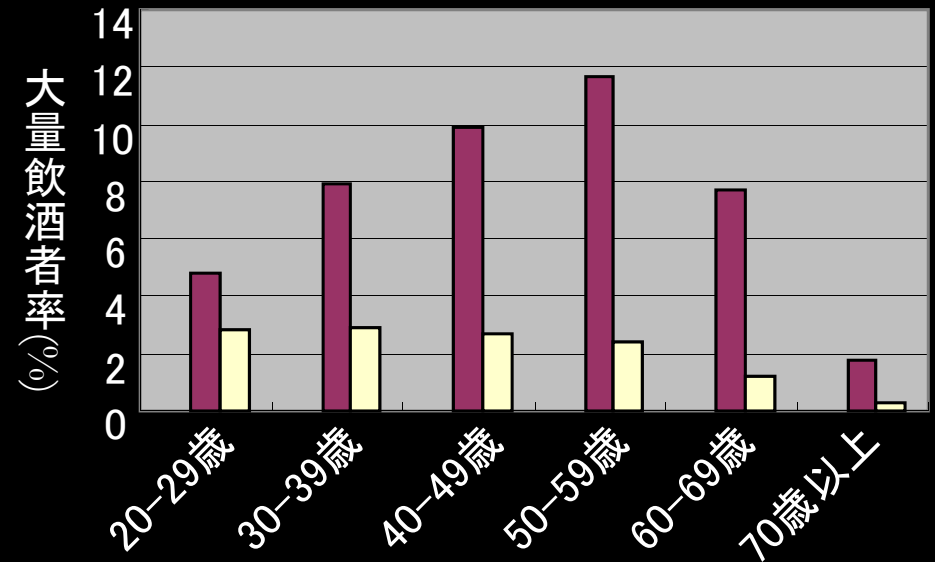
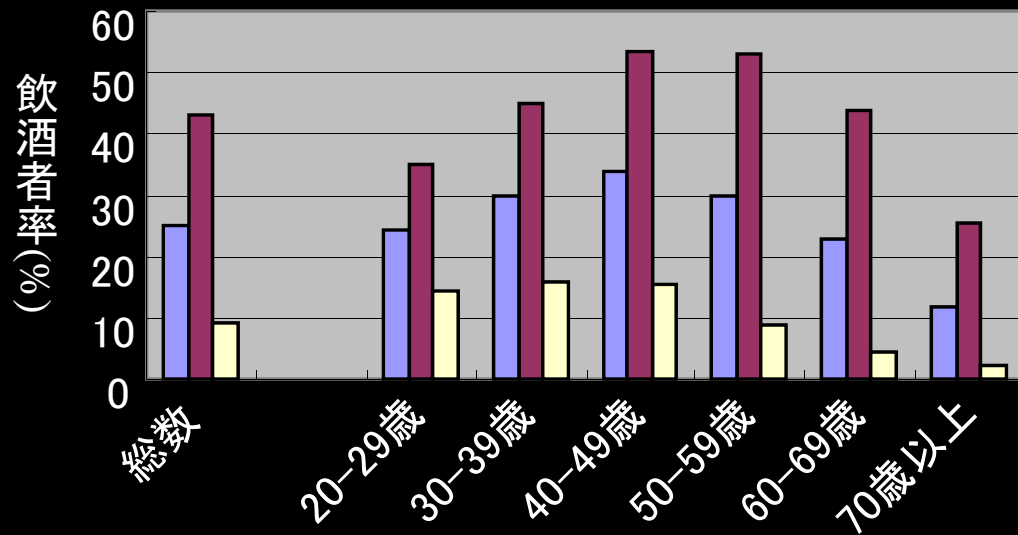
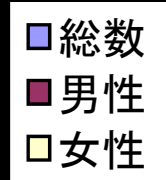


飲酒に伴う栄養・代謝障害に関して、現在では過栄養による肥満や糖尿病が問題となりつつある。過栄養状態は肝疾患進展のリスクである。アルコール性肝障害の病像は全く変貌していることに十分留意する必要がある。

(Blackwelder et al. Am J Med 1980; 68: 164)

性別・年齢からみた飲酒量・大量飲酒量

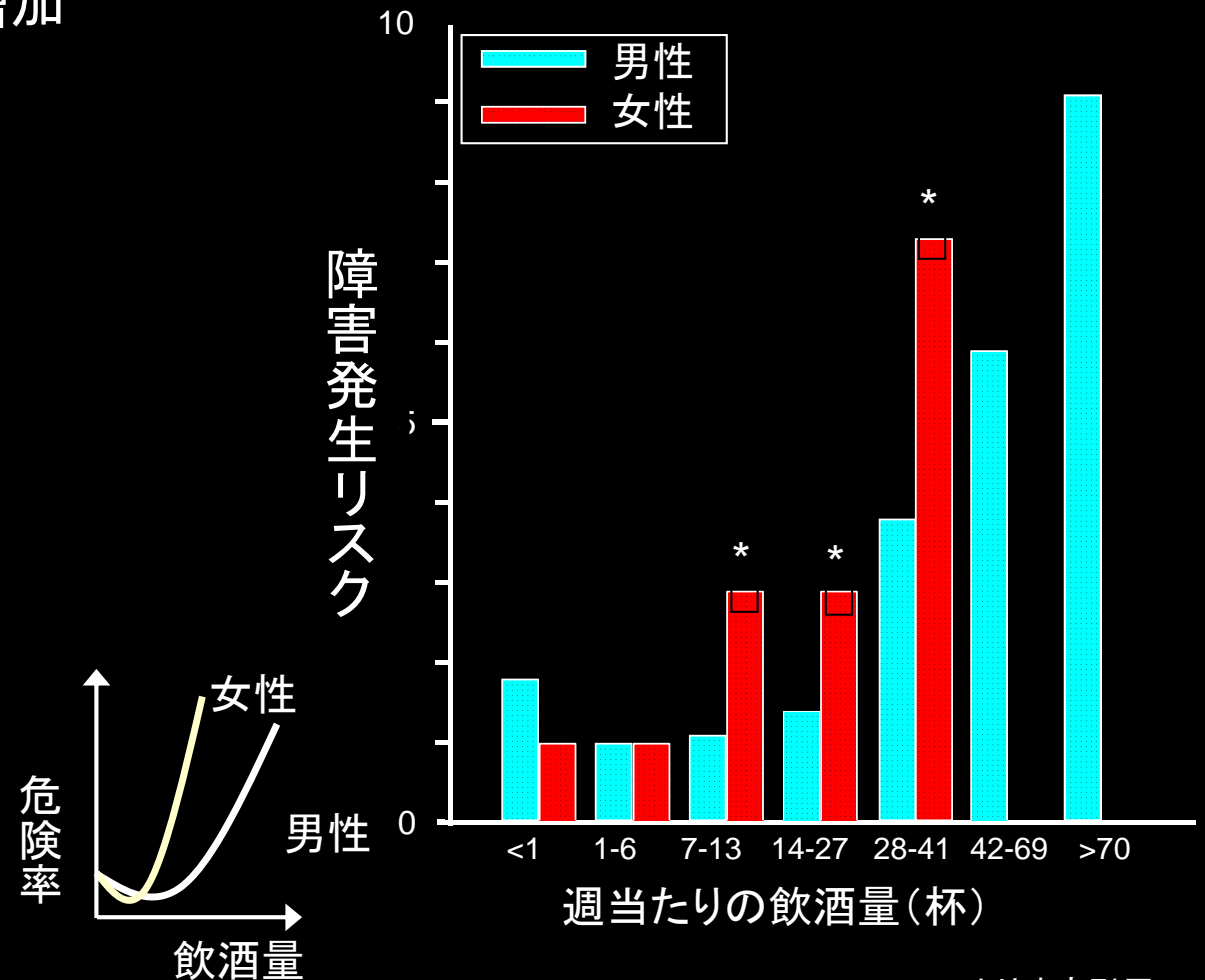
2002年厚生労働省国民栄養調査より



女性とアルコール関連問題

- 女性の社会進出と飲酒機会の増加
 - 飲酒をスタイルとして評価する風潮
- アルコール依存に陥りやすい
 - キッチン drinker
- 肝障害障害惹起における性差
 - 体格差: アルコール代謝能力の差
 - 同じ飲酒量ではより過剰
 - 女性ホルモンの関与
- 妊娠とアルコール
 - 胎児性アルコール症候群 (FAS)

アルコール性肝障害



Becker et al. Hepatology 23:1025, 1996より改変引用

内科系医師はアルコール有害使用を背景にした 身体疾患を多く診療している

しかし…

- アルコール関連問題の「枝葉」を診ており、アルコールの有害使用という「根幹」への認識とそれにアクセスするスキルに乏しい。
- アルコール依存症への関心も少ない。
- アルコール性身体疾患は多臓器にわたることが多いことも、専門性の分化が進む内科の実地診療の場では対応は困難。
- 依存症に介入する実効性のある手立てを持っていない。

潜在的なアルコール有害使用を多く診ながらも、自らの無力さと孤軍無縁の心境に陥り、内科医はアルコール性臓器障害を見ることをためらう、あるいは忌避したい気持ちにすら陥る。

アルコール医学・医科学をめぐる問題

研究を推進する立場から

率直に言ってアルコール関連医学・医科学への関心が薄い

- 研究費がほとんど獲得できない
- 業績をあげにくい
- 業績が評価されない
 - 教授選でも圧倒的に不利
 - 学会の役員や評議員になりにくい

学会演題数	2014年肝臓学会総会 7題（米国肝臓学会AASLD 59 題）
学会評議員	日本肝臓学会200名中アルコール医学専門家:2名
研究予算	科学研究費においてアルコールをテーマにした採択は稀

アルコール生命医科学

- 生化学
- 代謝・栄養
- 免疫学
- 細胞生物学
- 分子生物学
- ジェノミクス

アルコール医学生物学は時代の最先端の技術と概念を取り込んで自らの発展を可能としたばかりか、さらに最先端のパラダイムの萌芽を育み、次世代への進化を涵養する「最先端研究室」の役割を果たしてきた。

「偶然は、準備の整った研究室を好む」（ホレス・ジャドソン）

メタボリックシンドローム

高脂血症

糖尿病

肥満

高血圧

動脈硬化

栄養素・代謝・遺伝子発現の異常・偏倚

肝障害

肥満：内臓脂肪

胆

膵

- 「消化管・肝機能軸を中心とした病態連繋」パラダイムは、他の肝疾患でも重要。
- 消化器・肝臓機能軸からみたメタボリックシンドロームの制御という、新しい視点。
- 腸内細菌叢の世界への誘い。

アルコール、栄養素の偏奇、
外来抗原、エンドトキシン